

平成 20 年度 教育 研究 業績 書

氏名 白石 太一郎

最終学歴	同志社大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
取得学位	文学修士
所属学会	日本考古学協会、日本考古学会、考古学研究会、古代学研究会、史学会、アジア史学会、千葉歴史学会、九州考古学会、情報考古学会など
現在の専門分野	日本考古学
研究課題	考古学による日本古代国家形成史の研究 東アジアにおける王墓の比較研究 古代～中世における墓地の社会史
<b>【研究上の特記事項】</b>  奈良大学での最後の1年間ということで、もっぱら過去の研究自体や資料などの取りまとめの仕事を 行 った。 上記に関連して、最近10年間ほどの研究論文などを集めた著書の刊行準備を行なった。『考古学から見た倭国』（平成21年6月、青木書店より刊行）はその成果の一つである。	
<b>【教育上の特記事項】</b>  最後の1年間ということで、学部、大学院とも講義・演習にそれなりに努力したが、悔いが残るところも少なくない。その評価は受講生諸君に委ねるほかない。 本年度も、考古学関係の論文博士1名、課程博士1名の博士論文審査を主査として担当した。	
<b>【社会的活動】</b>  〔審議会委員など〕 文化審議会文化財部会専門委員（第一専門調査会）、文化庁古墳壁画保存活用検討会委員、宮内庁書陵部委員会委員、宮内庁陵墓管理委員会委員、独立行政法人文化財機構運営委員会委員、放送大学客員教授、大阪府文化振興会議委員、大阪府立近つ飛鳥博物館館長、奈良県立橿原考古学研究所指導研究員、千葉県史編纂専門員、徳島県にしえ夢街道県民会議専門委員、石川県文化遺産学術調査委員会委員、百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録有識者会議委員（大阪府・堺市・羽曳野市・藤井寺市設置）、（財）大阪府文化財センター理事、毎日出版文化賞選考委員、（財）三菱財団研究助成選考委員（人文科学分野）、（財）安藤忠雄文化財団評議員、八尾市文化財審議会委員、木津川市文化財審議会委員、八尾市高安古墳群調査委員会委員、犬山市史跡東之宮古墳調査委員会委員、福山市二子塚古墳保存整備指導委員会委員、日本考古学会評議員	
<b>【学内活動】（学内職歴を含む）</b>  図書館長（平成18年度より）	

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1. 『近畿地方における大型古墳群の基礎的研究』	共著	2008年4月	奈良大学	平成17～19年度に白石が研究代表者となって実施した科研費研究の報告書。戦後の古市・百舌鳥古墳群に関する調査・研究成果を集大成したもの。両古墳群の形成過程をほぼ明らかにすることが出来た。606頁。
2. 『重要文化財東大寺山古墳出土金象嵌銘花形飾環頭大刀』	共著	2008年4月	東京国立博物館	東大寺山古墳出土の「中平」銘鉄刀の修理報告書。白石が総括を執筆。88頁。
3. 『東アジアの巨大古墳』	共著	2008年4月	大和書房	2006年に堺市で開催された「東アジアの巨大古墳」と題する国際シンポジウムの記録。白石の報告「王墓からみた5世紀の倭王の性格」が収録されている。209頁。
4. 『継体天皇の時代徹底討論今城塚古墳』	共著	2008年7月	吉川弘文館	2005年に高槻市で開催された「継体大王とその時代」と題するシンポジウムの記録。白石の報告「六世紀の倭国における今城塚古墳」が収録されている。225頁。
(学術論文)				
1. 「叡福寺古墳の再検討」	単著	2008年9月	『檀原考古学研究所論集』第15 八木書店	叡福寺古墳（現聖徳太子墓）を八角墳として孝徳陵と考えたり、また叡福寺の成立を鎌倉時代としてこの古墳が厩戸皇子墓であることを疑う説が提起されている。しかし同古墳は三段築成の円墳にほかならず、叡福寺の成立も平安後期に遡ることなどから、厩戸皇子墓の最も有力な候補であることを指摘したpp.367-390.
2. 「吉備の大型横穴式石室をめぐる問題」	単著	2008年11月	『古代学研究』180号	後期の前方後円墳である福山市二子塚古墳調査の成果を踏まえ、備後では前方後円墳の終末が、備中より一段階遅れて7世紀初頭まで降ることを指摘し、同じ吉備でも備中と備後では大型前方後円墳の造営停止時期に明確な差異があることを述べた。pp.319-329.

(学会発表)			
1. 「考古学からみた継体朝の成立」	2008年5月17日	古代を偲ぶ会講演会 エル・おおさか	
2. 「河内の大群集墳をめぐって」	2008年5月18日	大阪府立近つ飛鳥博物館企画展講演会	
3. 「古墳からみた四世紀のヤマト王権」	2008年6月21日	名古屋中日文化センター	
4. 「叡福寺古墳(現聖徳太子墓)の再検討」	2008年6月22日	大阪府立近つ飛鳥博物館講演会	
5. 「考古学からみた邪馬台国」	2008年6月27日	退職公務員連盟総会記念講演会 ホテルアウイーナ	
6. 高松塚古墳壁画の解釈とその被葬者	2008年6月28日	朝日カルチャーセンター・大阪	
7. 「高松塚とキトラ古墳」	2008年7月13日	大阪府立近つ飛鳥博物館講演会	
8. 「藤ノ木古墳の被葬者をめぐって」	2008年8月23日	静岡SBS学苑	
9. 「多様な近世大名墓所」	2008年8月30日	加賀藩主前田家墓所フォーラム 高岡市瑞龍寺大茶堂	
10. 「近世大名墓所のなかでの野田山前田家墓所」	2008年8月31日	加賀藩主前田家墓所フォーラム 金沢市文化ホール	
11. 「継体朝の成立と北河内」	2008年9月5日	河北文化財愛護推進委員研修会 交野市倉治図書館	
12. 「近世大名墓所のなかでの蜂須賀家墓所」	2008年9月7日	徳島県アワコウコ楽サポーター養成講座 徳島市	
13. 「古墳からみた応神以前の王統譜」	2008年9月28日	大阪府立近つ飛鳥博物館講演会	
14. 「騎馬民族はやってきたのか」	2008年10月16日	奈良歴史地理の会講演会 奈良県中小企業会館	
15. 「古墳からみた五世紀のヤマト王権」	2008年10月18日	名古屋中日文化センター	
16. 「高松塚壁画の解釈と被葬者」	2008年10月19日	近鉄大和文化会主催講演会 東京銀座プロッサム	
17. 百舌鳥古墳群と古代王権	2008年10月22日	全国史跡整備全国協議会特別講演 リーガロイヤルホテル堺	

18. 「北陸の古墳を探る」	2008年10月25～26日	朝日カルチャーセンター・横浜主催現地講座
19. 「藤ノ木古墳が語るもの」	2008年11月1日	斑鳩町主催調査20周年記念シンポジウム いかるがホール
20. 「磯長谷古墳群の提起する問題 - 后妃と女帝の古墳を考える - 」	2008年11月3日	大阪府立近つ飛鳥博物館・太子町共催 講演 とれきしウオーク
21. 「最近の考古学の動向と邪馬台国問題」	2008年11月6日	法隆寺国際高校歴史文化科特別授業
22. 「夫婦合葬の始まり - 横穴式石室の合葬原理をめぐって - 」	2008年11月7日	芦屋市公民館講座
23. 「群集墳としての高安千塚」	2008年11月23日	八尾市制六十周年記念「高安千塚」シンポジウム 八尾市文化会館
24. 「考古学からみたヒメ・ヒコ制」	2008年11月30日	大阪府立近つ飛鳥博物館特別展講演会
25. 「考古学からみた継体朝の成立」	2008年12月13日	朝日カルチャーセンター・大阪
26. 「白鳥のふる里 古市古墳群の性格」	2009年1月10日	羽曳野市市制50周年記念古代史フォーラム 2009 LICはびきの
27. 「考古学からみた邪馬台国」	2009年1月25日	臨床心臓病談話会 総合新川崎病院
28. 「邪馬台国時代は弥生時代か古墳時代か」	2009年2月1日	池上曽根史跡公園フォーラム 池上曽根弥生学習館
29. 「太田天神山古墳の出現とその歴史的意義」	2009年2月8日	太田市教育委員会講演会、太田市社会教育センター
30. 「古市古墳群出現意味するもの」	2009年2月14日	藤井寺市市民文化財講座 藤井寺市生涯学習センター
31. 「弥生から古墳へ古墳時代はいつからはじまったのか」	2009年2月15日	池上曽根史跡公園フォーラムシンポジウム 池上曽根弥生学習館
32. 「百舌鳥・古市古墳群とヤマト王権」	2009年2月22日	大阪府立近つ飛鳥博物館特別展講演会
33. 「考古学から継体朝の成立を探る」	2009年3月1日	樟葉宮歴史談話会講演会 枚方市樟葉生涯学習市民センター

34. 「考古学からみた聖・俗二重首長制」		2009年3月7日	静岡新聞社SBS学苑	
35. 「考古学からみた邪馬台国と狗奴国」		2009年3月21日	朝日カルチャーセンター・大阪	
36. 「考古学からみた推古朝」		2009年3月22日	大阪府立近つ飛鳥博物館創設15周年記念講演会 エル・おおさか	
(その他)				
1. 「白鳥の帰るところ 古市古墳群の性格を巡って」	単著	2008年8月	『巨大古墳の時代をめぐって』藤井寺市教育委員会	記・紀の白鳥伝説は、古市古墳群などの巨大古墳の周濠の渚に置かれた水鳥埴輪から構想されたもので、またこの説話ではヤマトタケルの霊が最終的に古市に帰ることになっているのは、5・6世紀の大王の故郷が河内南部と考えられていたことを示すものほかならないことを論じた。
2. 「古代王権における女性の役割」	単著	2008年10月	『考古学からみた古代の女性』大阪府立近つ飛鳥博物館特別展図録	3～4世紀の倭国では聖俗二重王制(ヒメヒコ制)が必ずしも特殊な制度ではなかったこと、また6世紀の継体朝以降は、それ以前の王家の血を受け継ぐ王妃が王権の継承に重要な役割を果たしたこと、7世紀以降の女帝もその延長で理解できることを述べた。pp.8-18.
3. 「群集墳としての高安千塚」	単著	2009年3月	『やおの歴史遺産高安千塚を語る』八尾市教育委員会	河内の二大群集墳である高安千塚、平尾山千塚がともに渡来系集団が造営した群集墳であること、さらにその形成時期の顕著な相違から前者が物部氏、後者が蘇我氏が支配する集団であった可能性を指摘した。pp.47-85
4. 「百舌鳥・古市古墳群とヤマト王権」	単著	2009年1月	『百舌鳥・古市大古墳群展 巨大古墳の時代』大阪府立近つ飛鳥博物館特別展図録	古市・百舌鳥古墳群の成立、すなわち倭国王墓の大和から河内・和泉への移動は、大阪平野を基盤とする勢力がヤマト王権の中での盟主権を掌握した結果にほかならないこと、またそれが東アジア情勢の大きな変化と連動することを指摘した。pp.8-15.
5. 「卑弥呼の死と前方後円墳の誕生」	単著	2009年3月	『卑弥呼死す、大いに冢をつくる 前方後円墳の成立』大阪府立近つ飛鳥博物館特別展図録	定型化した大型前方後円墳の成立が3世紀中葉すぎと想定され、それが西方の邪馬台国連合と東方の狗奴国連合の合体による初期ヤマト政権の成立と卑弥呼の死を契機にするものであることを論じた。pp.8-15.